

「資源化」に求められる視点と取組の方向性（案）

	視点（一部集約）	前回会議を踏まえた取組の方向性	主な意見
家庭系	集団資源回収の促進	● 民間拠点等による回収量の把握 ● 集団資源回収制度の維持に加え、民間拠点を活用した未利用者の掘り起こし	・ 集団資源回収から民間の回収ルートへ流れているため、民間の回収量を把握することが必要である。 ・ 市の支出が減ることにつながるので、民間ルートの活性化は良い。
	分別・排出ルール of 周知・徹底 ※「分別・排出ルール of 周知・徹底」と「リサイクル制度 of 周知」を集約	● 啓発媒体の内容や周知方法 of 改善・工夫 ● 行政収集・処理コスト of 削減	・ ポスター・チラシ of 工夫で効果的な啓発につながる。 ・ 新入生ガイダンスの際に、ごみの分別に関して説明する機会を設けられないか。 ・ 資源物の分別徹底は行政コスト増にもつながることから、行政コストを減らせる仕組みを考えなければならない。
	資源として回収可能な品目 of 多様な回収方法 of 整備 ※「資源として活用可能な品目 of 回収」と「多様な回収方法 of 整備」を集約	● 民間ルートを含め回収拠点 of 充実 ● 高齢者の利用を手助けする仕組み ● 容器包装廃棄物等の民間主体 of リサイクルシステムへの移行に向けた働きかけ	・ 回収拠点ごとに回収する品目が異なるので利用しづらい。 ・ 高齢者は重いもの、大きなものが運べないので、これらの対応を考える必要がある。 ・ 行政負担が大きい容器包装廃棄物は、小型家電のように民間が主体となるリサイクルシステムへの移行が望ましい。
	市民が行う生ごみ堆肥化への取組支援	● 現在の取組や事業 of 継続 ● 「生ごみは資源」という認識を定着	・ 堆肥化器材の購入助成は、市民の取組を支援、また啓発の意味もあるので、継続する必要がある。 ・ 発生抑制だけでなく、排出された後も生ごみは資源ということを全面的に押し出すことが大切である。
事業系	事業ごみの分別・資源化 of 促進	● 民間事業者との連携（回収ルート・回収量の把握） ● 事業者間のごみ減量を競争する仕組み	・ 民間処理ルートに回っている資源物回収量を可能な範囲で把握することが必要である。 ・ ISO14000 を取得している事業者が多いことから、事業者間でごみ減量を競争するような仕組みはできないか。